観光社会資本の事例

テーマ 半田運河における歴史ある景観に配慮した整備

【施設の状況写真】



半田運河の護岸は昭和34年の伊勢湾台風後に整備された 施設であったことから老朽化が進んでいたとともに、運河に 生活排水等の流入により汚泥が堆積し悪臭を放っていた。



人々から親しまれる水辺の再現と高潮時の防護機能の老朽化対 策を勘案し、半田運河の護岸整備が実現した。それにより水質・ 生態系が改善されている。

【施設の利用写真】



運河沿いに立ち並ぶ黒板塀の醸造蔵は半田市の発展の歴史を 語る上で欠かせないものであり、背景を損なわず、旧堤防の印 象を後世に残す事が可能な施設となっている。



運河に隣接する博物館「酢の里」「酒の文化館」があり、歴史文 化学習の場になっていると共に、祭り、イベント会場等の開催の 場として利用されており、人々の環境意識も向上している。

【観光資源としての利用状況】

高潮による災害に関する防御と、歴史ある半田の町並みの保護という両面を勘案し、半 田における醸造文化の歴史を語る上で欠かせない醸造蔵が建ち並ぶ町並みを上手に活かし て運河の護岸整備事業が実施されました。

それによって、近年盛り上がりを見せている半田市における酢の文化、酒の文化を活か した産業観光においても(「酢の里」の来場者数は年間8万人を数える)半田運河の景観 は欠かせないものとなっています。

テーマ 半田運河における歴史ある景観に配慮した整備

【社会資本の基礎データ】

名称 半田運河

所在地 愛知県半田市

事業名 衣浦港海岸(高潮)事業

事業主体 愛知県

事業期間 平成3年度~

【社会資本の役割・効果】

防護

半田運河護岸は、伊勢湾台風の時のような、台風などによる高潮浸水災害を未然に防ぐための防護施設でありますが、築造から40年以上が経過し老朽化が著しかったことから、その護岸を修復し、今後想定される地震から護岸を守ると共に、背後市民の人命や財産を守るものであります。

景観に配慮した整備がなされたことによって、半田における醸造文化を活かした産業 観光には欠かせない施設となっていると共に、はんだクリーンボランティア等による 環境美化活動が推進されるなど、観光地として環境に対する意識の向上が見られます。

【位置図】



現地への交通手段

鉄道利用の場合

- ・名鉄河和線「知多半田」駅下車、徒歩13分
- ・ JR 武豊線「半田」駅下車、徒歩3分JR半田駅から徒歩5分 道路利用の場合
- ·名古屋高速道路 知多半島道路 半田中央IC~半田(約40分)
- ・東名高速道路豊田JCT 伊勢湾岸自動車道 大府IC 知多半島道路 半田中央IC~半田(約1時間)

【関連ホームページ】 半田市役所HP http://www.city.handa.aichi.jp/ 半田商工会議所HP http://www.handa-cci.or.jp/